

世界遺産 富士山麓で「おもち祭り」

2015年10月10日(土)の「おもちの日」、名峰富士の裾野に広がる富士急ハイランド(山梨県富士吉田市)にて、“元気の源”おもちパワー!「おもち祭り」を開催しました。

秋の行楽日和に 人気リゾート地でおもち三昧!

今年の10月10日「おもちの日」は3連休の初日にあたり、暦の上でも大安吉日で日柄も良いことから、ハレの日と縁の深いおもちの魅力を多くの人々に伝える絶好の機会です。

会場となった富士急ハイランドは、「ええじゃないか」や「ドドンパ」など若者に人気の絶叫コースターを始め、ファミリー層向けのトーマスランドや温浴施設、美術館、リゾートホテルなどが付帯する一大リゾート地で、老若男女問わずさまざまな年齢層の行楽客が関東近県はもとより遠方からも訪れています。

富士山を間近に見上げながら、おもち祭りが開幕!

標高830mほどの当地は夏も涼しく、この季節は朝晩もかなり冷え込むほどです。雄大な富士山を間近に見上げる絶好のロケーションの中、全国餅工業協同組合の精鋭たちによる「大もちつき大会」は、寒気を吹き飛ばすかのように勢いよく幕を開けました。

まずは佐藤功理事長が登壇し、国内産水稻もち米100%で作られている商品のみに表示される品質保証の赤いシンボルマークをご紹介。切り餅をお買い求めの際には、ぜひこのマークを目印にして頂くようにPRしました。

続いては、樋口完治氏の口上から全餅工もちつき隊が呼び込まれ、もちつきの実演がスタート。5組の臼と杵を使って同時にもちつきが行われるさまは、他ではめったに目にすることのできない勇壮活発な光景です。今回は富士急ハイランドの正義のヒーロー風公式キャラクター「絶叫戦隊ハイランダー」も登場し、小さな子供たちも大喜び。“本つき”の後には、希望する子供たちが「ちびっこもちつき隊」に任命され、ハイランダーの応援を受けながら、もちつき体験が行われました。

おもちを知り尽くした全餅工のこだわり!

そして最後に、おもちの状態がベストになるように、入念な“仕上げつき”が行われていきます。全餅工もちつき隊の男衆も最後の力を振り絞って渾身の一振り。おいしいおもちを提供するために一切の妥協を許さない、真摯な姿勢がうかがえます。実際にもちつき隊にコツを聞いてみたところ、おもちの表面だけでなく中までしっかりと餅米の粒をつぶすことが大切で、“臼と杵で押しつぶす”ような感覚でつくるとよいとのこと。また、餅米の品質や炊くときの水分、気温、湿度などでも仕上がりが微妙に異なってくるため、“かえし役”の経験と感覚も重要なのだそうです。

こうしてつき上がったおもちは、手際よくちぎり分けられて、あんこときなこの2種類に味付けされて来場者に振る舞われました。“もち米の王様”とも称される新潟県産「こがねもち米」から作られたおもちは、味、香り、粘り、コシの強さなどどれもが絶妙で、試食した多くの方にも大好評でした。



富士山とおもちの深いつながり

日本を代表する富士山と、伝統的食文化であるお餅。この両者に深い繋がりがあることを、会場に訪れた方からお聞きすることが出来ました。山梨県内から訪れた60歳代のご夫婦は、今回は連休を利用してお孫さんたちと一緒に富士急ハイランドに遊びに訪れたそうですが、これまでに夫婦で富士登山を10回以上も経験したことがあるほどの登山愛好家です。ご主人曰く、山登りは非常に体力を消耗するため栄養補給が肝心。山登りの前には登山口近くの店に立ち寄って、必ずお餅をトッピングした蕎麦を食べるのだそうです。そうすることによって、途中でバテることもなく、腹持ちもよいため、登山中の空腹感到悩まされることもないとのこと。また他の登山仲間も登山の前後にお餅を食べる人が多く、麓にはメニューにお餅を揃える店が多いのだそうです。

お餅は炭水化物を多く含み、マラソンやトライアスロンなど持久力が必要なスポーツにも適した食べ物ですが、登山にもぜひお勧めであることを逆に教えて頂きました。

一日中おもちの魅力を満喫！

この他にも、カーボローディングに最適なお餅レシピをご紹介する「餅カーボ料理紹介コーナー」では、ハイランダーとのコラボレーション企画として、レッド・ピンク・ブルー・グリーン・イエロー・ゴールドの食材をイメージした6品のお餅料理の紹介や試食体験を実施。全国餅工業協同組合の福島佳奈さんによって調理手順や栄養面の解説が行われ、ハイランダーも登場して軽妙なやりとりの中でお餅料理を楽しんで頂きました。ハイランダーの「ええじゃないかレッド」とコラボした「お餅入りミネストローネ」を試食した千葉県から訪れたカップルは、「ミネストローネとお餅の組み合わせが斬新。意外というより、絶妙。これ、おいしい！」とお気に入りのようす。今度朝食でも実践してくれるそうです。

また、会場内には恒例の「お餅大明神」も鎮座。小さな子供たちから大人まで、運試しにおみくじを引いたり、10月10日はお餅の日のキャラクターマークがあしらわれたモニュメントと記念撮影をする姿が多く見受けられました。

さらに、お餅の魅力を紹介する展示パネルから、クイズの答えを探し出して参加する「大抽選会」も開催。新潟県内から訪れたご家族と、徳島県から訪れた会社の同僚5名の2組様がみごと1等賞に当選し、切り餅一年分をプレゼントさせて頂きました。

おもち祭りの後には・・・

折しも、おもちの日の翌11日には、富士山が初冠雪を迎えました。おもちのように真っ白に雪化粧した富士はまさに冬の到来を告げる風物詩です。

このような美しい日本の景観と同様に、伝統的で優れた食文化としてお餅の魅力を次世代へ繋げるのは、私たち日本人にとっても大切です。今後もより多くの方々にお餅の魅力をご紹介するため、全国餅工業協同組合ではプロモーション活動を積極的に続けて参ります。

